

レプリカ（複製品）の話【1】

博物館などで、実物そっくりに造られたレプリカが展示されていることがあります。なぜ、実物があるのにわざわざレプリカを展示するのでしょうか。

実物資料は、収蔵している博物館などで展示するだけでなく、より多くの人々に見てもらうために、ほかの博物館に貸し出したり、研究資

料として使われたりします。

しかし、実物のなかには、輸送や展示に耐えられないほど壊れやすい物や、環境により変質してしまう物があります。そこで、実物は収蔵庫で保管し、代わりに「影武者」として、レプリカに活躍してもらうのです。

レプリカは、専門の技術者が実物



左：レプリカ / 右：実物資料（市原市川焼台遺跡出土2号小銅鐃）

から型をとって造る特別な二次的資料であり、単なる実物大の模型ではありません。

埋文レポートコーナー

●講演会：「縄文の大土木工事」

第3回最新出土考古資料巡回展のフィナーレを飾る

好評を博した巡回展（千葉県文化財法人連絡協議会ほか主催）に関連した講演会が昨年の12月23日に、県立中央博物館で行われました。当日、三直貝塚の調査結果を基に、「縄文の大土木工事」と題した講演会（講師：市立市川考古博物館長堀越正行氏）と、当センターの吉野健一研究員による調査発表が実施されました。

会場を埋め尽くした聴講者は、縄文の土木工事や環状盛土遺構の説明を熱心に聞き入っていました。



縄文時代の土木工事について講演する堀越氏

●三直貝塚遺跡見学会 Part 2

今回の特集で紹介した三直貝塚の遺跡見学会が、昨年の11月25日に行われ、多くの見学者が訪れました。今回は、昨年3月に続いて2回目です。当日は、調査中の遺跡の見学と共に出土品の公開が、近くの君津市民文化ホールで行われました。

見学者からは、「市内でこのような素晴らしい遺跡が発見されてうれしい」「一度でいいから自分も発掘してみたい」などの感想が寄せられました。



君津市民文化ホールで出土品の見学



大型住居跡（右端は、出入り口部分）の説明を受ける見学者

●千葉県生涯学習フェスティバル
- 原始・古代フェア -

夢ふくらむ・古代の衣装を試着体験

千葉県ほか主催のフェスティバルが、昨年の11月25日・26日の両日、幕張メッセ国際展示場で行われました。千葉県文化財法人連絡協議会は、勾玉作り、火起こし、古代衣装の試着、ペーパークラフトなどの体験コーナーを設け、親子連れなどにぎわいました。



チョッピリ緊張、古墳時代の衣装を試着（衣装協力／芝山町観光協会、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館）

■表紙写真／錦繡の三直貝塚（手前：大型住居跡・南西から）

お知らせコーナー

●展示室の紹介

当センター本部（四街道市鹿渡）の2階に、当センターが発掘調査した出土品の一部が展示されています。時代は、旧石器時代から中近世までです。一般の方も見学できますので、是非おいで下さい。

- 開室日／月曜日から金曜日（祝祭日、当センターの休業日は除く）
- 開室時間／午前9時30分～午後4時30分
- 入室料／無料

*当センター作成のビデオ・ライブラリーも視聴できます。

- 問合わせ／資料部資料課 TEL 043-422-8811（代表）

●「土器ッと古代“宅配便”」実施中！

実物の出土品等のセットを、県内の学校や公民館等の社会教育施設に提供し、有効に活用してもらう企画です。セットの搬出入は、当センターが行います。また、職員が出張して授業を行うこともあります。

今年度は、17校への提供を行い（2月現在）社会科や総合的な学習等で活用されました。お申込みお問合せは、下記まで。

- 資料部資料課 TEL 043-422-8811（代表）



房総の文化財

VOL.24

平成13年2月28日

財団法人 千葉県文化財センター

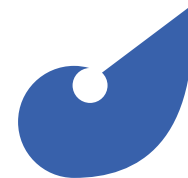
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811（代）

FAX 043-422-8850

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



スペシャル
特集

君津市

のう
み
三直貝塚

●縄文時代●
かんじょうもりつち い こう
環状盛土遺構と大型住居跡

クローズアップNOW

君津市の丘陵において、縄文時代中期後半から晩期前半（約4500年～3000年前）にかけての集落跡が発見され、話題を呼んでいます。館山自動車（木更津～富津区間）の建設に伴い、平成11年7月から発掘調査を開始し、環状盛土遺構、大型住居跡、貝層などが発見されました。なかでも、環状盛土遺構は縄文時代の土木工事跡として注目を集めており、今回、特集を組みました。

三直貝塚は、房総丘陵の標高約100mの山中に位置し、畑沢川と小系川上流域に当たります。

発掘調査の結果、丘陵の平坦部に、環状盛土遺構が築かれていることが分かりました。この遺構は、近年注目を集めている縄文時代の土木工事跡と考えられています。規模は、外径約140m、盛土幅約10～20m、最大高さ約1.8mで、縄文時代後期中ごろから晩期前半に営まれていたようです。

盛土の中からは、住居跡が数軒発見されました。なかでも、一辺が約10mもある大型住居跡の発見は、話題を呼びました（表紙写真）。この住居跡は、他の住居跡と比べて掘り込みが大変深く、建て替えも最低4回も行われているようです。住居跡からは、石棒、耳飾り、異形台付土器といった、まじないや祭祀に関連する遺物が出土しました。

このように、盛土の中から、当時の住居跡が発見される例は極めて珍しく、今後の研究成果が期待されます。

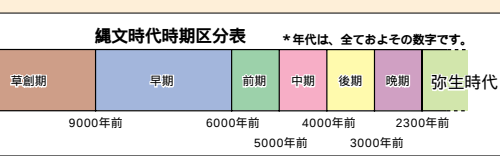
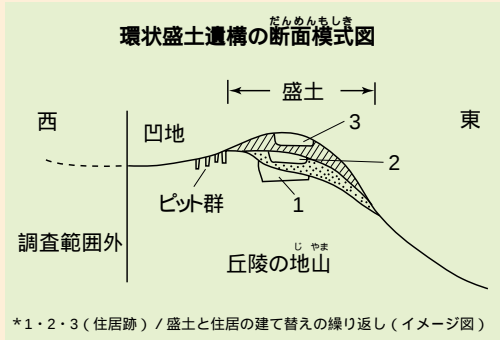
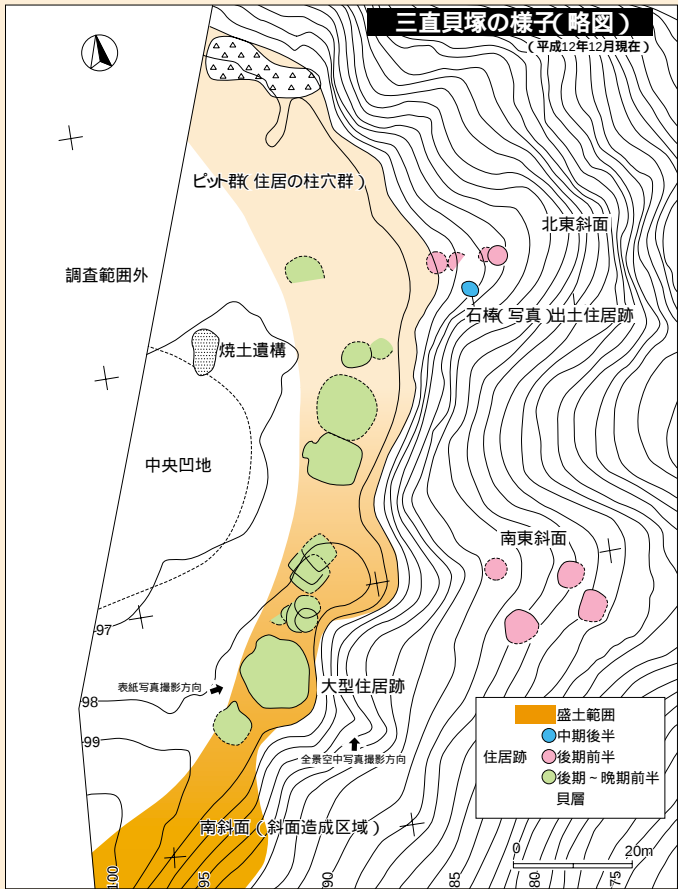
環状の盛土に囲まれた中央部分は、断面模式図のようになくばんでいます。ここからは、遺物はほとんど出土せず、住居跡などの遺構もありませんでした。

以上のことから、環状盛土遺構は、自然地形を削ったり土を盛り上げたりした、当時の土木工事跡であることが、少しずつ分かりかけています。

その他、縄文時代後期後半から晩期前半にかけての住居跡多数（ビット群を含む）斜面を造成した跡、貝層2か所（1か所は調査範囲外）などが発見されました。主な出土品は、土器・石器をはじめ、耳飾り、ヒスイ製の垂飾品（首飾りなど）、中空土偶、独鈷石、注口土器、石棒などです。



第1回遺跡見学会で盛土遺構を見学
（約千人もの見学者が訪れた。平成12年3月）



水まきも重要な仕事です
房州名産のポッチ笠をかぶる補助員さん
日よけ用グッズを背負いながら、平板実測

空から見た 三直貝塚



インタビュー 三直貝塚を語る

平成11年7月に開始した発掘調査も、いよいよ終盤を迎えました。そこで、調査に主に携わった職員に、三直貝塚の内容と感想を熱く語ってもらいました。



紅葉を背にして作業する補助員さん

最初に環状盛土遺構を見たときの印象はいかがでしたか。

吉野 初めて土の盛り上がりを見たときは、古墳かと思いました。確認トレンチ（昔の生活の跡を確認する溝状の穴）を入れてみたところ、縄文時代後期の土器が多量に出土したので、縄文時代の遺構であることが分かりました。

小林 現場の地面に土器片が落ちておらず、丘陵の平坦部縁辺に高まりが見られたので、中世の遺跡かな、と思ったくらいです。

県内外の盛土遺構の確認例を教えてください。

小林 北海道石倉貝塚、青森県三内丸山遺跡、秋田県狐岳遺跡、栃木県寺野東遺跡などがあげられます。県内では、環状の貝塚に盛土遺構に近い要素があるのでは、と考えています。

吉野 それから、県内では、印旛沼周辺の縄文時代後・晩期の遺跡で、いわゆる「土器塚」を伴う集落遺跡とも似ている部分があるのでは、と考えられています。

今回の調査では、環状盛土遺構と大型住居跡に話題が集中していますが「貝塚（貝層）」にもふれてみたいのですが。

吉野 遺跡名に「貝塚」とあるので、千葉市加曽利貝塚や東京都中里貝塚のような大規模な貝塚を連想しがちですが、ここで確認されたのは、小規模な貝層が2か所だけです。時期は、縄文時代後期中ごろに限定されます。

小林 貝の種類は、ハマグリ、オキアサリ、アサリ、



一軒の住居跡から石棒が7本もまとまって出土したのは、大変珍しい

イボキサゴなどの海の砂底に棲んでいるものと、ツメタガイ、サルボウなどの海の泥底に棲むものとに分けられます。動物や魚の骨は比較的少なく、シカ、イノシシ、マダイ、クロダイ、フグの仲間などが出土しています。中でもフグの仲間の骨が多いのがこの特徴です。

調査を振り返っての感想はいかがですか。

吉野 どうやって調査を進めたらよいか、悩みの連続でした。

特に、ここは、遺構と盛土の関係が複雑な上に、ローム土（オレンジ色の火山灰土）を掘り込んで造られた大型住居跡が、ローム土によって人為的に埋められていたので、本来の住居跡の形がはっきりするまで手間取りました。

小林 大型住居跡の規模が明らかになりつつあるのはうれしいですね。それと、縄文中期末の住居跡1軒から石棒が7点も出土した時は、感動しました（写真）。補助員さんの中には、石棒が出土すると大いに盛り上がる人がいて、楽しかったです。

最後に一言お願いします。

小林 三直貝塚の集落が営まれた時期は、大きく2期に分けられそうなので、いずれ中期から晩期までの集落の変遷を追ってみたいですね。

吉野 調査を始めたころは、休憩所はなく、現場まで急な道なき道を歩いたのが懐かしい思い出です。

ある日、補助員さんが「なんか変なモノ出ました!？」と言って知らせてくれた「中空土偶」（写真）の出土状況が、今後夢に出そうです。



祭祀などに使われたと思われる出土品
（1.注口土器、 2.石棒、 3.独鈷石、 4.異形台付土器、 5.耳飾り、 6.ヒスイ製の垂飾品、 7.注口付土器、 8.中空土偶）



貝層の調査。
中央下は、イノシシの下顎の骨